



HyperFlex ファブリック インターコネクト クラスタの展開

- [インストレーションの概要 \(1 ページ\)](#)
- [HyperFlex ファブリック インターコネクト接続クラスタのインストール前チェックリスト \(2 ページ\)](#)
- [ファブリック インターコネクト クラスタ 展開を使用する HyperFlex でサポートされているモデル/バージョン \(2 ページ\)](#)
- [インストール \(4 ページ\)](#)
- [インストール後 \(16 ページ\)](#)

インストレーションの概要

次の表に、ファブリック インターコネクト 接続済み HyperFlex クラスタを設定するためのインストール ワークフローの概要を示します。

ステップ	説明	参考資料
1.	インストール前のチェックリストに記入します。	Cisco HX Data Platform のインストール前チェックリスト
2.	ネットワークが設定されていることを確認します。	
3.	Cisco Intersight にログインします。	Cisco Intersight にログイン
4.	ターゲットを要求します。 (注) HyperFlex ノードをすでに登録している場合は省略します。	ターゲットの要求

ステップ	説明	参考資料
5.	(オプション) Cisco UCS のファームウェア バージョンを確認します。	ファブリック インターコネクトのファームウェア バージョンの確認 (6 ページ)
6.	HyperFlex クラスタ プロファイルの作成ウィザードを実行します。	HyperFlex ファブリック インターコネクト クラスタの構成 (6 ページ)
7.	コントローラ VM を介してインストール後のスクリプトを実行します。	インストール後のタスク

HyperFlex ファブリック インターコネクト接続クラスタのインストール前チェックリスト

Cisco HyperFlex ファブリック インターコネクト接続クラスタのインストールを開始する前に、お使いのシステムがインストール・構成要件を満たしていることを確認してください。インストール前の要件の詳細については、「[Cisco HX Data Platform のインストール前のチェックリスト](#)」を参照してください。

ファブリック インターコネクト クラスタ 展開を使用する HyperFlex でサポートされているモデル/バージョン

次の表に、ファブリック インターコネクトを使用した HyperFlex クラスタの展開でサポートされているハードウェアプラットフォームとソフトウェア バージョンのリストを示します。Cisco Intersight でサポートされる製品識別規格 (PID) については、[Cisco HyperFlex HX シリーズ データシート](#) を参照してください。

コンポーネント	モデル/バージョン
M6 サーバー	<ul style="list-style-type: none"> • HXAF245C-M6SX • HX245C-M6SX • HXAF225C-M6SX • HX225C-M6SX • HX220C-M6S • HX240C-M6SX • HX240C-M6L • HXAF220C-M6S • HXAF220C-M6SN • HXAF240C-M6SX • HXAF240C-M6SN
M5 サーバ	<ul style="list-style-type: none"> • HX220C-M5SX • HXAF220C-M5SX • HX240C-M5L • HX240C-M5SX • HXAF240C-M5SX
Cisco HyperFlex HX Data Platform (HXDP)	<ul style="list-style-type: none"> • 5.5(1a) • 5.0(2e) • 4.5(2e)、4.5(2d) <p>(注)</p> <ul style="list-style-type: none"> • HXDP バージョン 5.0(2a)、5.0(2b)、5.0(2c)、5.0(2d)、4.5(2a)、4.5(2b)、および 4.5(2c)は引き続きクラスタ拡張のみをサポートします。 • HXDP 4.0.2x からのアップグレードは、ESXi バージョンが 4.5(2x) と互換性がある場合サポートされます。 • M6 サーバーには、HXDP 5.0(1a) 以降が必要です。
デバイス コネクタ	Cisco Intersight による自動アップグレード)

インストール

Cisco Intersight にログイン

Cisco ID を使用したログイン

Cisco Intersight にログインするには、Cisco Intersight アカウントを作成するには有効な **Cisco ID** が必要です。シスコ ID をお持ちでない場合は[こちら](#)から作成してください。



重要 デバイス コネクタで必須となるログイン クレデンシャルのフォーマットはなく、入力したクレデンシャルがそのまま構成済み HTTP プロキシサーバに渡されます。ユーザー名をドメイン名で限定する必要があるかどうかは、HTTP プロキシサーバの構成によって異なります。

シングル サインオンを使用したログイン

シングルサインオン（SSO）認証では複数のアプリケーションへのログインに1つのクレデンシャルセットを使用できます。SSO 認証では、Cisco ID の代わりに企業のクレデンシャルを使用して Intersight にログインできます。Intersight は SAML 2.0 を介して SSO をサポートし、サービス プロバイダー（SP）として機能して、SSO 認証のために ID プロバイダー（IdP）と統合できます。Cisco ID と SSO を使用して Intersight にサインインするようにアカウントを構成できます。Intersight での SSO の詳細については、[こちら](#)を参照してください。

ファブリック インターコネクト ターゲットの要求

次の手順により、Cisco Intersight によって管理される 1 つ以上のターゲットを登録します。

始める前に

この手順は、シスコアカウントを持つ既存のユーザを対象としています。使用可能ではない場合は、[Cisco Intersight にログイン](#)を参照してください。

-
- ステップ 1** Cisco Intersight の左側のナビゲーション ウィンドウで、**[管理 (ADMIN)] > [ターゲット (Targets)]** を選択します。
 - ステップ 2** **[ターゲット (Targets)]** 詳細ページで、**[新しいターゲットを要求 (Claim a New Target)]** をクリックします。
 - ステップ 3** **[新しいターゲットを要求 (Claim a New Target)]** ウィザードで、**[ハイパーコンバージド (Hyperconverged)] > [Cisco HyperFlex クラスタ (Cisco HyperFlex Cluster)]** を選択し、次のフィールドに入力します。

- (注) **[Device ID (デバイス ID)]** と **[Claim Code (クレーム コード)]** の情報は、次の場所で確認できます。
1. Cisco UCS Manager および Cisco IMC (**[Admin (管理)]** > **[Device Connector (デバイス コネクタ)]**)。
 2. **[HyperFlex コネクト UI (HyperFlex Connect UI)]** > **[設定 (Settings)]** > **[デバイス コネクタ (Device Connector)]** を選択して、Cisco HyperFlex の情報を確認します。
 3. Cisco UCS Director (**[Administration (管理)]** > **[Device Connector (デバイス コネクタ)]**)。

UI 要素	基本的な情報
デバイス ID	<p>該当するデバイス ID を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • UCS ドメインの場合は、プライマリ FI および 下位の FI のシリアル番号を次の形式で使用します (FI-A のシリアル番号 & FI-B のシリアル番号)。例: [SAL1924GKV6&SAL1913CJ7V] • スタンドアロンサーバの場合は、シリアル番号を使用します。例: NGTR12345 • HyperFlex の場合は、クラスタ UUID を使用します。例: XXXXXXXX-XXXX-XXXX-XXXX-XXXXXXXXXXXX. • Cisco UCS Director の場合は、デバイス ID を使用します。例: XXXXXXXX-XXXX-XXXX-XXXX-XXXXXXXXXXXX.
登録コード	<p>デバイスの登録コードを入力します。このコードは、該当するターゲット タイプのデバイス コネクタで確認できます。</p> <p>(注) 登録コードを収集する前に、デバイス コネクタから Cisco Intersight へのアウトバウンドネットワーク アクセスが可能であること、デバイス コネクタの状態が [未登録 (Not Claimed)] であることを確認してください。</p>

ステップ 4 **[要求 (Claim)]** をクリックします。

- (注) 新しく登録したターゲットを表示するには、**[ターゲット (Targets)]** ページを更新してください。

ファブリック インターコネクトのファームウェア バージョンの確認

Cisco UCS Manager で、[機器 (Equipment)] > [ファームウェア管理 (Firmware Management)] > [インストールされたファームウェア (Installed Firmware)] タブを選択し、正しいファームウェア バージョンであることを確認します。

ハードウェアとソフトウェアの間の依存関係の完全なリストについては、[UCS Hardware and Software Compatibility ツール](#)を使用して該当する UCSM リリースバージョンを参照してください。

HyperFlex ファブリック インターコネクト クラスタの構成

Intersight で HyperFlex ファブリック インターコネクト クラスタを構成するには、次の手順を実行します。

-
- ステップ 1 Intersight に HyperFlex クラスタ管理者またはアカウント管理者の権限でログインします。
 - ステップ 2 [設定 (CONFIGURE)] > [プロファイル (Profiles)] に移動します。
 - ステップ 3 [Profiles (プロファイル)] ページで [HyperFlex Cluster Profiles (HyperFlex クラスタ プロファイル)] タブが選択されていることを確認し、[Create HyperFlex Cluster Profile (HyperFlex クラスタ プロファイルの作成)] をクリックして HX クラスタ プロファイルのインストール ウィザードを起動します。
 - ステップ 4 展開の種類として [標準] を選択します。[開始 (Start)] をクリックします。
 - ステップ 5 [General (全般)] タブで、次のフィールドに値を入力します。

フィールド	説明
[Organization] ドロップダウン リスト	<p>HyperFlex クラスタ プロファイルは、デフォルトの組織または特定の組織に属することができます。次のどちらかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none">• デフォルト: クラスタ プロファイルをデフォルトの組織に属させます。デフォルトの組織に属するすべてのポリシーが、HyperFlex クラスタ プロファイルの作成ウィザードに一覧表示されます。• 特定の組織—HyperFlex クラスタ プロファイルを指定された組織にのみ所属させます。選択された組織に属するポリシーのみが、HyperFlex クラスタ プロファイルの作成ウィザードに一覧表示されます。 <p>たとえば、HyperFlex ノードが2つの組織で共有され、ある組織のクラスタ プロファイルに関連付けられている場合、同じノードを別の組織のクラスタ プロファイルに関連付けることはできません。クラスタ プロファイルは、指定された組織に属するユーザーのみが使用できます。</p>
[Name] フィールド	<p>HyperFlex クラスタ名を入力します。</p> <p>クラスタ名は、vCenter クラスタ名、HyperFlex ストレージコントローラ名、HyperFlex ストレージ クラスタ名として使用されます。</p>
[HyperFlex データ プラットフォーム (HyperFlex Data Platform)] バージョン ドロップダウン リスト	<p>インストールする Cisco HyperFlex Data Platform のバージョンを選択します。次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none">• 5.5(1a)• 5.0(2e)• 4.5(2e)、4.5(2d) <p>(注) 選択したバージョンは、設定ウィザードで後から選択できる HyperFlex ポリシーのタイプに影響します。</p>

フィールド	説明
[Server Firmware Version (サーバのファームウェアバージョン)] ドロップダウン リスト	<p>サーバー コンポーネント (CIMC、アダプタ、BIOS など) に使用されるサーバー ファームウェア バンドル バージョンを手動で入力します。</p> <p>各 HX Data Platform リリースに推奨されるファームウェアについては、『Cisco HX Data Platform のリリース ノート』を参照してください。</p>
(Optional) [説明 (Description)] フィールド	HyperFlex クラスタ プロファイルの説明を追加します。
(オプション) [タグの設定 (Set Tag)] フィールド	タグ キー。

[Next] をクリックします。

ステップ 6 [**Nodes Assignment (ノード割り当て)**] ページで、今すぐノードを割り当てるか、必要に応じて後でノードを割り当てることを選択できます。ノードを割り当てるには、[**Assign nodes (ノードの割り当て)**] チェックボックスをクリックして、割り当てるノードを選択します。サーバー パーソナリティに基づいてノード ロールを表示できます。

[ノード タイプ] 列で、サーバー パーソナリティに基づいたノード ロールを表示できます。*HyperFlex* コンピュート サーバーまたはパーソナリティを持たないノードを選択する場合は、クラスタ展開を成功させるために必要なハードウェアがサーバーで使用可能であることを確認する必要があります。Cisco *Intersight* でサポートされる製品識別規格 (PID) については、[Cisco HyperFlex HX シリーズ データ シート](#) を参照してください。

重要 Cisco HyperFlex Fabric Interconnect クラスタでは、最小3ノードから最大32ノードまで設定できます。選択したすべてのノードが同じ UCS ドメインに属している必要があります。

[Next] をクリックします。

ステップ 7 [**Cluster Configuration (クラスタ設定)**] ページで、次のフィールドに入力します。

(注) さまざまなクラスタの設定タスクについて、設定の詳細を入力するか、必要な設定データをポリシーからインポートできます。事前設定されているポリシーを使用するには、設定タスクの横にある [**ポリシーの選択 (Select Policy)**] をクリックして、一覧から適切なポリシーを選択します。

フィールド	説明
セキュリティ	
[Hypervisor Admin (Hypervisor 管理)] フィールド	<p>ハイパーバイザ管理者のユーザー名には、英数字のみを含める必要があります。</p> <p>(注) ESXi の導入には root アカウントを使用します。</p>

フィールド	説明
[Hypervisor Password (ハイパーバイザパスワード)] フィールド	<p>Hypervisor パスワードを入力します。次のいずれかになります。</p> <p>メモ Cisco123 のデフォルトの ESXi パスワードは、インストール時にその一部として変更する必要があります。ESXi の新規インストールの場合、[このノードのハイパーバイザーは工場出荷時のデフォルト パスワードを使用する (The Hypervisor on this node uses the factory default password is checked)] チェックボックスがオンになっていることを確認します。インストール中にすべてのノードに設定される新しい ESXi の root パスワードを指定します。</p> <p>ESXi のインストールでデフォルト以外の root パスワードが設定されている場合は、[このノードのハイパーバイザーは工場出荷時のデフォルト パスワードを使用する (Hypervisor on this node uses the factory default password)] チェックボックスがオフになっていることを確認します。構成した ESXi の root パスワードを入力します。このパスワードは、インストール中に変更されません。</p>
[Hypervisor Password Confirmation (Hypervisor パスワードの確認)] フィールド	Hypervisor パスワードを再入力します。
[Controller VM Admin Password (コントローラ VM 管理者パスワード)] フィールド	<p>ユーザが指定した HyperFlex ストレージコントローラ VM のパスワードを入力します。パスワードは、少なくとも1つの小文字、1つの大文字、1つの数字、および _@\$%^&*! のうち1つの特殊文字を含む、10 文字以上で指定する必要があります。</p> <p>(注) このパスワードは管理者アカウントで使用するため、控えておいてください。</p>
[Controller VM Admin Password Confirmation (コントローラ VM 管理者パスワードの確認)] フィールド	コントローラ VM 管理者パスワードを再入力します。
DNS、NTP、タイムゾーン	

フィールド	説明
[Timezone] フィールド	現地のタイムゾーンを選択します。
[DNS サーバ (DNS Servers)] フィールド	1 つ以上の DNS サーバを入力します。Intersight には、パブリックドメインを解決できる DNS サーバが必要です。
[NTP サーバ (NTP Servers)] フィールド	1 つ以上の NTP サーバを入力します (IP アドレス または FQDN) 。ローカル NTP サーバの使用を強くお勧めします。
(オプション) [DNS サフィックス (DNS Suffix)] フィールド	DNS 検索サフィックスを入力します。 このフィールドは Cisco HX Data Platform リリース 3.0 以降にのみ適用されます。
[vCenter] (オプションのポリシー)	
[vCenter Server FQDN or IP (vCenter Server の FQDN または IP)] フィールド	vCenter サーバ FQDN または IP アドレスを入力します。
[vCenter Username (vCenter ユーザー名)] フィールド	vCenter のユーザ名を入力します。例: <i>administrator@vsphere.local</i>
[vCenter Password (vCenter パスワード)] フィールド	vCenter パスワードを入力します。
[vCenter Datacenter Name] フィールド	vCenter データセンター名を入力します。
[ストレージ設定 (Storage Configuration)] (オプションのポリシー)	
[VDI Optimization (VDI 最適化)] チェック ボックス	VDI の最適化を有効にするには、このチェック ボックスをオンにします (ハイブリッド HyperFlex システムのみ) 。
[Logical Availability Zones (論理可用性ゾーン)] チェック ボックス	論理可用性ゾーンの設定が推奨されます。このオプションは、Cisco HX Data Platform リリース 3.0 以降に導入されている 8 個以上のノードとクラスタを有する HyperFlex クラスタ サイズで使用できます。 (注) 論理可用性ゾーンの設定は、ファブリック インターコネクトに 8 個以上のノードが接続されている HyperFlex クラスタに推奨されます。
自動サポート (オプションのポリシー -)	
[自動サポート (Auto Support)] チェック ボックス	このチェックボックスをチェックして、自動サポートを有効にします。

フィールド	説明
[Send Service Ticket Notifications To (サービス チケット通知を送信)] フィールド	サポート チケットの受信者の電子メールアドレスを入力します。
ノードIP範囲	
<p>(注) このセクションでは管理IPプールを設定します。[管理ネットワーク (ManagementNetwork)] フィールドに入力して、展開に使用する IP アドレスの範囲を定義する必要があります。</p> <p>[Node (ノード)] 設定画面で、定義した IP アドレスが選択したノードに自動的に割り当てられます。コントローラ VM 管理ネットワークにセカンダリ範囲の IP アドレスを割り当てる場合は、必要に応じて以下の追加フィールドに入力します。両方の IP 範囲は同じサブネットに属している必要があります。</p>	
[Management Network Starting IP (管理ネットワーク開始 IP)] フィールド	管理 IP プールの開始 IP アドレスを入力します。
[Management Network Ending IP (管理ネットワーク終了 IP)] フィールド	管理 IP プールの終了 IP アドレスを入力します。
[Management Network Subnet Mask (管理ネットワークサブネットマスク)] フィールド	管理 VLAN のサブネット マスクを入力します。
[Management Network Gateway (管理ネットワークゲートウェイ)] フィールド	管理 VLAN のデフォルト ゲートウェイを入力します。
[Controller VM Management Network Starting IP (コントローラ VM 管理ネットワークの開始 IP)](オプション)	コントローラ VM 管理ネットワークの開始 IP アドレスを入力します。
[Controller VM Management Network Ending IP (コントローラ VM 管理ネットワークの終了 IP)](オプション)	コントローラ VM 管理ネットワークの終了 IP アドレスを入力します。
[Controller VM Management Network Subnet Mask (コントローラ VM 管理ネットワークのサブネットマスク)] (オプション)	コントローラ VM 管理ネットワークのサブネット マスクを入力します。
[Controller VM Management Network Gateway (コントローラ VM 管理ネットワークのゲートウェイ)] (オプション)	コントローラ VM 管理ネットワークのデフォルト ゲートウェイを入力します。
クラスタネットワーク	
[VM Migration VLAN Name (VM 移行 VLAN 名)] フィールド	VM 移行の VLAN 名を入力します。この名前には、1~32文字を指定することが可能で、英数字、アンダースコア、およびハイフンの組み合わせを含めることができます。

フィールド	説明
[VM Migration VLAN ID (VM 移行 VLAN ID)] フィールド	VM 移行の VLAN ID を入力します。ID が 0 の場合、トラフィックはタグなしです。ID には 0 以上 4095 以下の任意の数字を指定できます。
[VM Network VLAN Name (VM ネットワーク VLAN 名)] フィールド	VM ネットワークの VLAN 名を入力します。この名前には、1～32文字を指定することが可能で、英数字、アンダースコア、およびハイフンの組み合わせを含めることができます。 必要に応じて、追加の VM ネットワーク VLAN 名を追加できます。
[VM Network VLAN ID (VM ネットワーク VLAN 名)] フィールド	VM ネットワークの VLAN ID を入力します。ID には 0 以上 4095 以下の任意の数字を指定できます。
[KVM Starting IP (KVM 開始 IP)] フィールド	アウトオブバンド KVM アクセスの開始 IP アドレスを入力します。ノードごとに 1 つの IP アドレスが必要です。範囲は、UCS Manager 管理インターフェイスと同じアドレス範囲内である必要があります。
[KVM Ending IP (KVM 終了 IP)] フィールド	アウトオブバンド KVM アクセスの終了 IP アドレスを入力します。
[KVM Subnet Mask (KVM サブネット マスク)] フィールド	KVM のサブネット マスクを入力します。
[KVM Gateway (KVM ゲートウェイ)] フィールド	KVM のゲートウェイを入力します。
[Management Network VLAN Name (管理ネットワーク VLAN 名)] フィールド	管理ネットワークの VLAN 名を入力します。この名前には、1～32文字を指定することが可能で、英数字、アンダースコア、およびハイフンの組み合わせを含めることができます。
[Management Network VLAN ID (管理ネットワーク VLAN ID)] フィールド	管理ネットワークの VLAN ID を入力します。VLAN は Intersight にアクセスできる必要があります。この名前には、1～32文字を指定することが可能で、英数字、アンダースコア、およびハイフンの組み合わせを含めることができます。
[Jumbo Frames (ジャンボ フレーム)] チェックボックス	最適なパフォーマンスを実現するには、ジャンボ フレームを有効にします。
[外部 FC ストレージ (External FC Storage)] (オプションのポリシー) 外部ストレージを追加する場合は、次のフィールドに値を入力して [FC ストレージ (FC Storage)] を構成します。	

フィールド	説明
[Enable FC Storage (FC ストレージの有効化)] チェック ボックス	FC ストレージを有効にするには、このチェック ボックスをオンにします。
[VSAN A 名] フィールド	<p>プライマリ ファブリック インターコネクト (FI-A) の VSAN の名前。</p> <p>最初の仮想ストレージエリア ネットワークの名前を入力します。この名前には、1~32文字を指定することが可能で、英数字、アンダースコア、およびハイフンの組み合わせを含めることができます。</p>
[VSAN A ID] フィールド	<p>プライマリ ファブリック インターコネクト (FI-A) のネットワークに割り当てられた一意の ID。</p> <p>注目 UCS または HyperFlex システムで現在使用されている VSAN ID を入力しないでください。UCS ゾーン分割を使用するインストーラに既存の VSAN ID を入力すると、その VSAN ID の既存の環境でゾーン分割が無効になります。</p> <p>最初の仮想ストレージエリア ネットワークの ID を入力します。ID には 1 以上 4093 以下の任意の数字を指定できます。</p>
[VSAN B 名] フィールド	<p>下位のファブリック インターコネクト (FI-B) のネットワークに割り当てられた一意の ID。</p> <p>(注) UCS または HyperFlex システムで現在使用されている VSAN ID を入力しないでください。UCS ゾーン分割を使用するインストーラに既存の VSAN ID を入力すると、その VSAN ID の既存の環境でゾーン分割が無効になります。</p> <p>2 番目の仮想ストレージエリア ネットワークの名前を入力します。この名前には、1~32文字を指定することが可能で、英数字、アンダースコア、およびハイフンの組み合わせを含めることができます。</p>
[VSAN B ID] フィールド	2 番目の仮想ストレージエリア ネットワークの ID を入力します。ID には 1 以上 4093 以下の任意の数字を指定できます。
[WWxN Range Starting Address (WWxN 範囲開始アドレス)] フィールド	WWxN 範囲の開始アドレスを、20:00:00:25:B5:XX の形式で入力します。

フィールド	説明
[WWxN Range Ending Address (WWxN 範囲の終了アドレス)] フィールド	WWxN 範囲の終了アドレスを、20:00:00:25:B5:XX の形式で入力します。
[外部 iSCSI ストレージ (External iSCSI Storage)] (オプションのポリシー) 外部ストレージを追加する場合は、次のフィールドに値を入力して [iSCSI ストレージ (iSCSI Storage)] を構成します。	
[iSCSI ストレージの有効化 (Enable iSCSI Storage)] チェックボックス	iSCSI ストレージを有効にするには、このチェックボックスをオンにします。
[VLAN A 名 (VLAN A Name)] フィールド	プライマリ ファブリック インターコネクト (FI-A) で、iSCSI vNIC に関連付けられている VLAN の名前。 最初の仮想ローカル エリア ネットワークの名前を入力します。この名前には、1~32文字を指定することが可能で、英数字、アンダースコア、およびハイフンの組み合わせを含めることができます。
[VLAN A ID] フィールド	プライマリ ファブリック インターコネクト (FI-A) で、iSCSI vNIC に関連付けられている VLAN の ID。 最初の仮想ローカル エリア ネットワークの ID を入力します。ID には 0 以上 4095 以下の任意の数字を指定できます。
[VLAN B 名] フィールド	下位のファブリック インターコネクト (FI-B) で、iSCSI vNIC に関連付けられている VLAN の名前。 2 番目の仮想ローカル エリア ネットワークの名前を入力します。この名前には、1~32文字を指定することが可能で、英数字、アンダースコア、およびハイフンの組み合わせを含めることができます。
[VLAN B ID] フィールド	下位のファブリック インターコネクト (FI-A) で、iSCSI vNIC に関連付けられている VLAN の ID。 2 番目の仮想ローカル エリア ネットワークの ID を入力します。ID には 0 以上 4095 以下の任意の数字を指定できます。
[プロキシ設定 (Proxy Settings)] (オプションのポリシー)	
[Hostname] フィールド	HTTP プロキシ サーバ FQDN または IP アドレスを入力します。
[Port] フィールド	プロキシ ポート番号を入力します。
[Username] フィールド	プロキシ ユーザー名を入力します。

フィールド	説明
[Password] フィールド	HTTP プロキシ パスワードを入力します。
HyperFlex ストレージ ネットワーク	
[Storage Network VLAN Name (ストレージネットワーク VLAN 名)] フィールド	ストレージネットワークの VLAN 名を入力します。この名前には、1~32文字を指定することが可能で、英数字、アンダースコア、およびハイフンの組み合わせを含めることができます。
[Storage Network VLAN ID (ストレージネットワーク VLAN ID)] フィールド	<p>ストレージ VLAN トラフィックの VLAN ID を入力します。VLAN は、HyperFlex クラスタごとに固有である必要があります。ID には 0 以上 4095 以下の任意の数字を指定できます。</p> <p>(注) ストレージ VLAN は、HyperFlex クラスタごとに一意である必要があります。この VLAN はルーティング可能である必要はなく、レイヤ 2 にのみ残すことができます。リンク ローカル範囲 169.254.x.x/24 からの IP アドレスは、ストレージ インターフェイスに自動的に割り当てられます。</p>

[Next] をクリックします。

ステップ 8 [Nodes Configuration (ノードの設定)] ページで、自動的に割り当てられた IP とホスト名の設定を確認できます。Intersight は、IP アドレスの自動割り当てを試みます。次のフィールドに入力します。

フィールド	説明
[クラスタ管理 IP アドレス (Cluster Management IP Address)] フィールド	このクラスタ管理 IP は管理 IP と同じサブネットに属している必要があります。
[MAC プレフィックス アドレス (MAC Prefix Address)] フィールド	<p>MAC プレフィックス アドレスは自動で割り当てられます。00:25:B5:00 ~ 00:25:B5:EF の範囲の MAC プレフィックス アドレスで、MAC プレフィックス アドレスを上書きできます。</p> <p>注目 HyperFlex クラスタの展開を成功させるには、MAC プレフィックスがすべてのクラスタで一意であることを確認してください。Intersight は、重複する MAC プレフィックスの検証を行い、重複する MAC プレフィックスが見つかった場合は適切な警告を表示します。</p>

フィールド	説明
[Replication Factor (レプリケーション係数)] ラジオボタン	書き込まれる各データ ブロックのコピーの数。 オプションは、ストレージ クラスタ全体で 2 または 3 個のデータの冗長レプリカです。レプリケーション係数 3 が推奨されているオプションです。
[ホスト名プレフィックス (Hostname Prefix)] フィールド	指定したホスト名プレフィックスがすべてのノードに適用されます。

ステップ 9 [Summary (概要)] ページで、クラスタ設定とノード設定の詳細情報を確認できます。レビューを行い、入力した情報がすべて正しいことを確認します。[Errors/Warnings (エラー/警告)] タブの下でトリガーされているエラーがないことを確認します。

ステップ 10 [Validate and Deploy (検証と展開)] をクリックして、展開を開始します。必要に応じて、[Validate (検証)] をクリックし、[Save & Close (保存して閉じる)] をクリックして、後で展開を完了することができます。[結果 (Results)] ページには、さまざまな設定タスクの進捗状況が表示されます。

次のタスク

クラスタ展開のモニタリング

次の方法でクラスタ展開の進捗状況を確認します。

- [Results (結果)] ページを開いたままにして、クラスタ展開の進捗状況をリアルタイムで確認できます。
- 現在のビューを閉じ、インストールをバックグラウンドで続行することもできます。結果画面に戻るには、[設定 (CONFIGURE)] > [プロファイル (Profiles)] > [HyperFlex Cluster Profiles (HyperFlex クラスタ プロファイル)] に移動して、クラスタの名前をクリックします。
- [HyperFlex Cluster Profile Table (HyperFlex クラスタ プロファイ テーブル)] ビューのステータス列で、展開の現在の状態を確認できます。
- HyperFlex クラスタ プロファイル展開の進行状況は、[リクエスト (Requests)] ページで確認することもできます。

インストール後

インストール後のタスク

ステップ 1 HyperFlex クラスタが Intersight で登録されていることを確認します。

ステップ 2 クラスタが vCenter に登録されていることを確認します。

ステップ 3 **Hyperflex クラスタ**に移動して、クラスタを選択し、[...] をクリックして **HyperFlex Connect** を起動します。

ステップ 4 クラスタの管理 IP アドレスに SSH 接続し、**admin** ユーザー名とインストール時に提供されたコントローラ VM パスワードを使用してログインします。クラスタがオンラインであり、かつ正常な状態であることを確認します。

ステップ 5 シェルで次のコマンドを貼り付け、Enter を押します。

```
hx_post_install
```

ステップ 6 画面に表示される指示に従って、インストールを完了します。**post_install** スクリプトによって以下の操作が実行されます。

- vCenter ホストのライセンス付与。
 - ベスト プラクティスごとのクラスタの HA/DRS の有効化。
 - vCenter の SSH/シェル警告の抑制。
 - ベスト プラクティスに沿った vMotion の設定。
 - ゲスト VLAN/ポートグループの追加。
 - HyperFlex Edge 構成のチェックの実行。
-

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。